

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：44426

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H06356・19K21439

研究課題名（和文）低出生体重児の育児における母親の自己効力感（PMP S-E）尺度の開発と検証

研究課題名（英文）Reliability and Validity of Perceived Maternal Parenting Self-Efficacy Japanese version

研究代表者

黒川 麻里（KUROKAWA, Mari）

大阪国際大学短期大学部・その他部局等・講師

研究者番号：90826059

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：NICUに入院する低出生体重児の母親への退院支援の指標として活用することを目的として、育児の自己効力感尺度であるPerceived Maternal Parenting Self-Efficacy (PMP S-E) Scaleを日本語に翻訳（日本版PMP S-E）し、尺度の信頼性と妥当性の検証を行った。

日本版PMP S-Eは十分な信頼性が証明された。妥当性においては構成概念に関して継続的調査により、さらに妥当性を高める必要がある。

本研究は、日本版PMP S-E scaleが低出生体重児の母親の育児における自己効力感を測定する尺度として有用であることを示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本版PMP S-E尺度は、低出生体重児の育児に特化した母親の自己効力感を測定できる尺度である。育児を行う中で母親が自己効力感を低下させている領域を明らかにし、個々の母親に応じた個別の支援の提供への指標として活用できる。日本版PMP S-E尺度は母親への支援に有用だけでなく、母親の支援の提供者が、提供した支援の振り返をし、支援を改善するための指標ともなり得る。

低出生体重児がNICUを退院する前に、日本版PMP S-E尺度を用いて母親の育児への自己効力感を評価し、評価に基づいて母親の自己効力感を高めることで、母親は自宅の育児で直面する困難に対処でき、育児不安を低減させると考える。

研究成果の概要（英文）：We translated the Perceived Maternal Parenting Self-Efficacy (PMP S-E) scale into Japanese and tested a psychometric property of the Japanese version of Perceived Maternal Parenting Self-Efficacy (JPMP S-E) scale.

Seventy-nine Japanese mothers of low birth weight (LBW) infants in Neonatal intensive care units (NICUs) in two regional perinatal care centers in the Kinki region of Japan participated in the study.

The JPMP S-E scale shows adequate reliability and moderate validity in this study, indicating its clinical utility. The JPMP S-E scale can be used as an indicator for care providers, especially medical experts of mothers and infants, to provide tailored support.

研究分野：周産期看護

キーワード：低出生体重児 NICU 支援 母親 尺度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

低出生体重児の育児における母親の自己効力感 (PMP S-E) 尺度の開発と検証

## 1. 研究開始当初の背景

周産期医療の進歩により、出生体重が 500g に満たない子どもの生存も可能となってきた。NICU で多くの医療機器に囲まれたわが子の姿を前に、両親は子育てへの自信を失いがちである。低出生体重児の母親に関する研究は、出産直後の心理的变化や NICU 入院中の母児の愛着形成にこれまで重点が置かれてきた。一方、最近の児童虐待の検証などから、保護された環境である NICU から自宅への移行期の支援がより重要であることが明らかとなってきた。しかし、NICU 入院中に提供される支援によって、退院後の母親の育児への自信がどのように影響を受けるかは明らかにはなっていない。申請者は、NICU 退院から自宅への移行期に注目し、全国の NICU 看護師を対象にして退院支援に関する調査を行った。その結果、母親が自宅の育児で直面する具体的課題への支援が NICU では十分に提供できていないことが明らかになった。

Perceived Maternal Parenting Self-Efficacy Tool(PMP S-E 尺度)は、NICU に入院する低出生体重児の母親の育児に対する自信を測定する尺度で、米国において産後うつや母児の心身の健康に関する様々なアウトカムとの関連が指摘されている。(Barnes & Adamson-Macedo, 2007)。しかし、PMP S-E 尺度の標準化された日本語版は本邦ではまだ作られておらず、その臨床応用もなされていない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の 2 点である。

日本語版 PMP S-E 尺度が文化的背景の異なるわが国において信頼性・妥当性を持つかを検証する。

実際の臨床応用での有用性を確認する。

## 3. 研究の方法

本研究では、日本語版 PMP S-E 尺度を開発し、臨床での応用の可能性を検証する。尺度の完成までの過程は 4 段階である。

【第 1 段階】開発者に尺度使用の許可を得て暫定日本語版 PMP S-E 尺度を作成する。

【第 2 段階】暫定日本語版 PMP S-E 尺度の内容妥当性、表面妥当性を検討する。

【第 3 段階】暫定日本語版 PMP S-E 尺度を用いた調査を実施する。

【第 4 段階】暫定日本語版 PMP S-E 尺度の臨床的応用を検証し、実態解明から育児支援システムの検討につなげる。

既に第 1 段階は終わっており平成 30 年度は第 2 段階から始める。

平成 30 年度 : 第 2 段階 ~ 第 3 段階

【第 2 段階】暫定日本語版 PMP S-E 尺度の妥当性の検討

周産期領域で経験がある医師と看護師 6~8 名により、内容妥当性を検討する。

低出生体重児の母親 20 名を対象に暫定日本語版 PMP S-E 尺度の表面妥当性を検討する。

【第 3 段階】日本語版 PMP S-E 尺度を用いた調査

(1) 対象の選定

研究対象施設は、医療法人社団愛仁会 明石医療センターと千船病院である。

両施設からは、協力の同意を得ており、倫理委員会の承認を得ている。

研究対象者は、NICU に入院する在胎週数 37 週未満の低出生体重児の母親 100 名とする。

対照群は、在胎週数 37 週以上の正体重児の母親 100 名とする。

(2) 方法 :

暫定日本語版 PMP S-E 尺度と妥当性に用いる尺度を用いた無記名式質問紙調査を行う。対象者には文書を用いて個別に研究方法、5 人権の保護及び法令等の遵守への対応に従って倫理的配慮について十分に説明する。調査票は、密封できる封筒に入れて回収する。

調査票は、以下の ~ の質問内容で構成される。

母親、父親の背景 : 年齢、最終学歴、既往症、仕事の有無、家族の年収、出産歴

子どもに関する情報 : 在胎週数、出生体重、出生後の医療的ケア

質問票の内容 : 日本語版 PMP S-E 尺度 20 項目と併存妥当性に用いる尺度で構成される。

平成 31 年度 : 第 3 段階 ~ 第 4 段階

【第 4 段階】日本語版 PMP S-E 尺度の臨床応用の検証および退院前の実態把握

(1) 妥当性・信頼性の検証

併存妥当性および弁別妥当性、尺度の内的一貫性から信頼性を検証する。

(2) 子どもの退院前の母親の育児に対する自信の実態把握

#### 4. 研究成果

79名の母親から有効回答（有効回答率 97.5%）が得られた。再テスト法（ $n=72$ ）による Interclass correlation coefficient (2,1) は 0.75 (95% CI [0.44, 0.87],  $p < .001$ )、内的妥当性として測定した Cronbach's alpha は、0.90 と尺度の信頼性は十分であった。妥当性に関しては、基準関連として用いた愛着尺度 (MAI-J) と間にと弱い相関 ( $r = 0.4$ ,  $p < .001$ ) がみられたが、一般の自己効力感尺度 (GSES) との間に相関関係は見られなかった ( $r = 0.21$ ,  $p = 0.06$ )。構成概念妥当性の検討の因子分析では、オリジナルの調査と同様に 4 因子が抽出されたが各因子に含まれた項目に若干の違いがあった。

育児の自己効力感と一般の自己効力感に相関関係が見られなかったことは、日本版 PMP S-E 尺度は育児に特有な自己効力感を測定する尺度であることを示唆した。構成概念妥当性では、探索的因子分析ではオリジナルの尺度と同様の 4 因子の構造が確認できたが、確認的因子分析では、モデルの適合性の基準は満たせなかった。確認的因子分析への影響要因としては、日本人特有の極端な回答を避けた回答バイアスと対象者数が影響していると考えられた。

今後は対象者数を増やして継続的な調査により構成概念妥当性を確かにする必要がある。本研究は、日本版 PMP S-E 尺度が低出生体重児の母親の育児における自己効力感を測定する尺度として有用であることを示唆した。日本版 PMP S-E 尺度は、母親への支援の指標として用いることで個々の母親に応じた支援を提供することができるだけでなく、育児の支援の専門職にとっても支援を検討し改善するためにも有用である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 黒川麻里
2. 発表標題 General Self-Efficacy Scaleを用いたNICU入院中の低出生体重児の母親の自己効力感に関する研究
3. 学会等名 小児保健学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒川麻里
2. 発表標題 低出生体重児の母親と正出生体重児の母親の育児における自己効力感の比較
3. 学会等名 日本新生児看護学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考